高山しのぶ
SHINOBU TAKAYAMA

あまつき 4

あまつき 4

高山しのぶ

AMATSUKI
04

あまつき 4

Contents

第十九夜　そして、日は陰り　5

第二十夜　木の暗茂　33

第二十一夜　児手柏の両面　61
第二十二夜　たまさか、わくばらに　97

第二十三夜　高嶺颪の虎落笛　129
第二十四夜　朱のゆずり葉　161

あまつき
四
高山しのぶ

人物紹介

六合 鳴時…のんびりした性格の高校生。鵺に襲われ、左目の視力を失ってしまう。天網を書き換える力を持つ「白氣の者」でもある。

緑ノ女御 二三年前にこちらの世界へ迷い込んでしまった、鳴時の同級生。

緑朱…四天の一人でありサカガミ神社の姫巫女。ある妖に呪いをかけられている。

朽葉…鳴時を鵺から助けた女剣士犬神憑きの家系で、周囲からうとまれてきた。初めは楽天的な鳴時を嫌うが、次第に心を開き始める。

覚天…強い力を持つ妖であり、天網を読み解くことができる四天の一人。

露草…覚天の仲間の妖。人に恨みを持つ稲荷と行動を共にしている。

真朱…緑朱の妹。兄の呪いを解くため鳴時と行動を共にする。

平八…鳴時、紺の知人。露草と出会い事件に巻き込まれる。

沙門…朽葉の育て親で、妖退治をしている坊主。

★あらすじ★

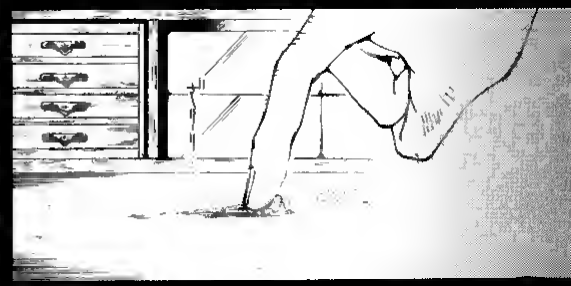
最先端のＣＧ技術で江戸の町を再現した大江戸幕末巡回展を訪れた鳴時は、妖・夜行と鵺に襲われ、幕末の江戸に酷似した異世界に迷い込んでしまう。

この世界に馴染み始めた鳴時だったが、覚天や、妖退治の総本山の姫巫女・緑朱、その妹・真朱との出会いによって、世界の均衡を巡る大きな流れへと巻き込まれてゆく。

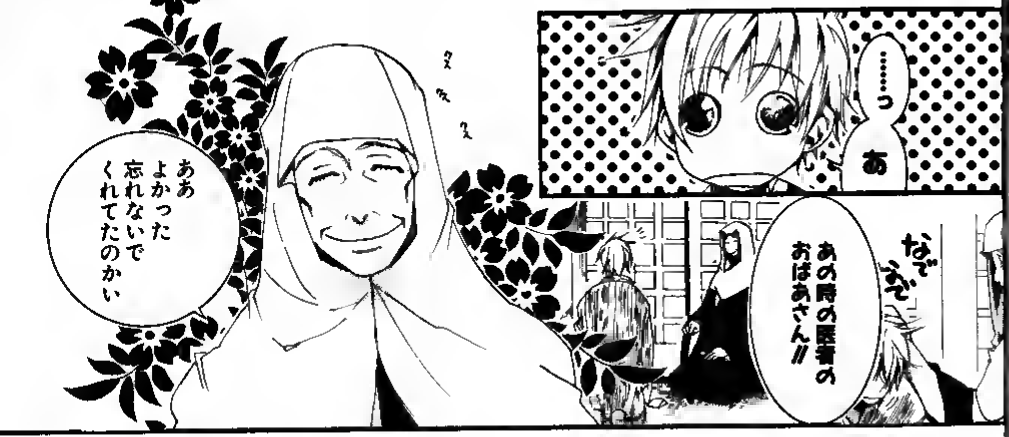
緑朱の呪いを解く術を探すため、町に出た鳴時、朽葉、真朱らは、妖が原因と思われる事件を調べ始める。妖退治を頼まれた沙門は、事件の大元となる場所に向かい、一方、露草も稲荷の願いを叶えるため、怪我をした平八と分かれて件の場所へと赴く。

そして、露草を探す覚天は、平八から話を聞き――。

第十九夜
そして、日は陰り



やっぱり!
あの時の坊や
目立つからすぐわかったよ!!


……っ
あ
なでなで
あの時の患者のおばあさん!!
ああよかった忘れないでくれてたのかい

それより今日はどうして薬問屋にいるんだい?
まさか…
目が悪化したとか?

あの時は結局役に立てなくて悪かったねぇ
あっ
いえいえそんな
診てもらっただけでも安心しましたし

それじゃ行ってくるからお客人のことよろしくね
行ってらっしゃい気を付けて!!
へイ!行ってらっしゃいやし!!
大丈夫かな…二人だけで…
さぁさ、お客人中に入ってお茶でもどうだい?

あーはいどうも
いやぁあんた背ぇ高えな!!
やっぱ芸人なんだろ?なんの役者なんだい

ぬっ

夜行も姫も
等しく邪魔でね
お前達は
夜行の手の上で
少々はしゃぎすぎた
それを乱す輩が厳なだけ
俺は調和を持って
よしとする
それはお前達には
ただの人の子だが
俺には案外
役に立つ
それ!?
手出しするなら
許さない
そんな理由でわざわざ
こんな所まで出向くたぁ
随分走り使いの役が
板についたもんだなぁ?
じゃらん
それはお前には
ただの屑妖怪だが
俺とは案外縁がある
手出しするなら
許さねぇぞ
露草
この馬鹿め
なんだい
その無様な
姿は?
狐と一緒に
心中でも
する気かい
うるせえ
そんなにそのガキが
大事ならさっさと
連れて消えやがれ
まだ邪魔する
っていうなら…
お前も
同罪だ!!
ハッ
バッサッ
ぐっ…
がうんっ

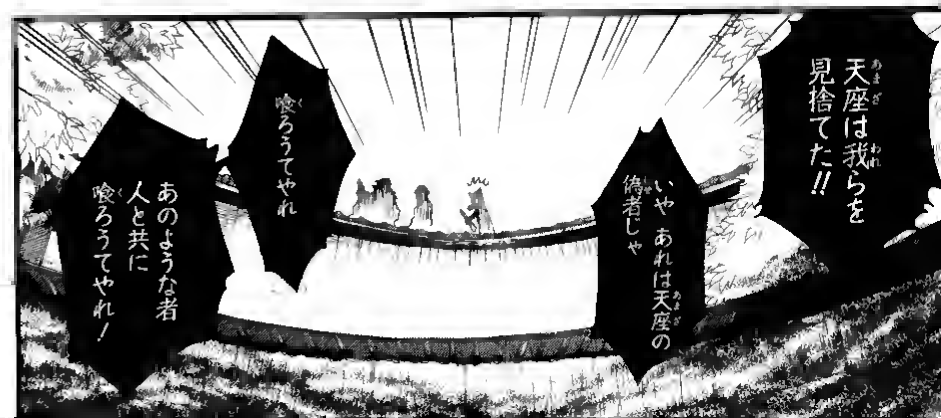
おおをぉ
お
喰らえ
お
喰らえ
お
お
お
オ
オ
臓腑をえぐれ
血をすすれ
夜行の鈴の
音に合わせ

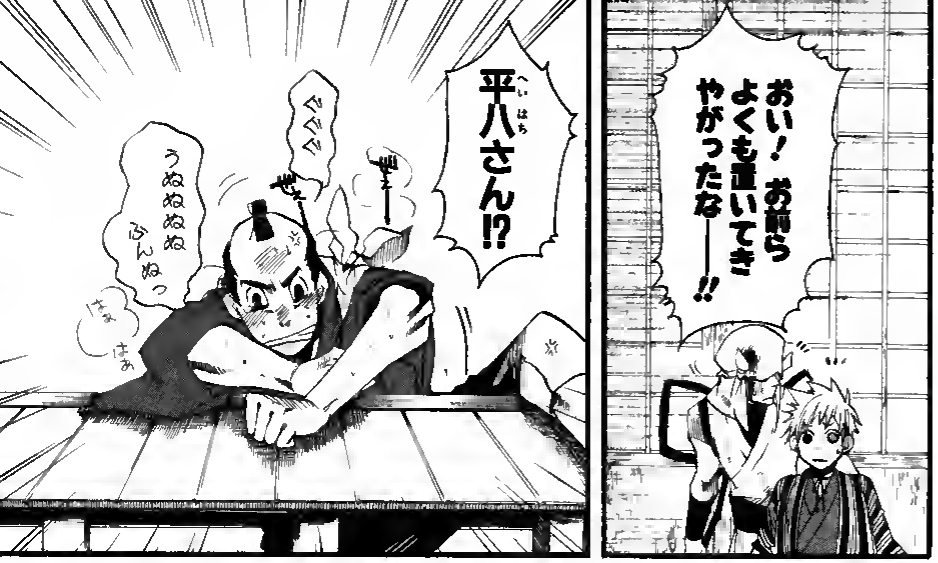
何暢気に
見てんです!!
うぐ

ひっ
とっ…
溶け合ってる…!?

この愚か者め
梵に手を
上げるとは!
ばた
くそっ
はなせっ
ビシャ
この馬鹿も
夜行の穢れに
浮かされているんだよ
空五倍子
全く
見苦しいな
俺は難しいことは
何も求めない
媚も追従もいらない
不文律はたった一つだ

意見は許すが
反抗を許した
覚えはない

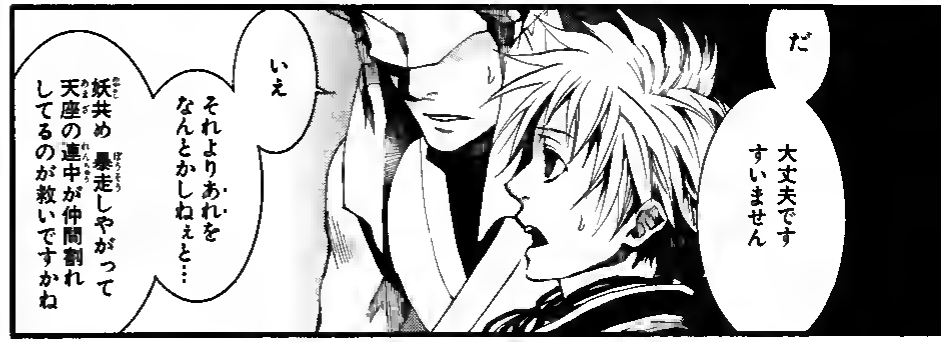

天座は我らを
見捨てた!!
いや あれは天座の
偽者じゃ
喰ろうてやれ
あのような者
人と共に
喰ろうてやれ!


おい！ お前らよくも置いてきやがったな――!!
平八さん!?
うねねねね ふんぬっ
はぁ

…コラ 空五倍子
言う通りに外に放ってきたわ!!
こやつが自力と鼻を使い上がってきても私の当てはない!!
ぜーぜー
くそっ どこの門番も閉まってんだもんよ…
当たり前だけど

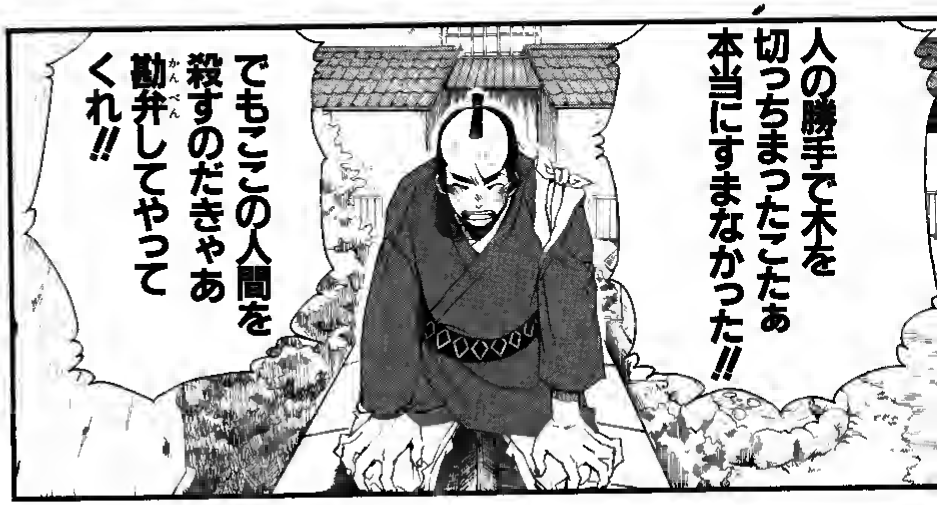
平八…!? お前 なんでこんな所に…
何やら伝えたいことがあるんだとさ
修羅場覚悟でここまで来たんだ 聞くだけ聞いてやれ

うわっ
大事ないですか！ 六合さん！
うわわわわわ 禍ノ女のひもが～～
いやんなもんより 自分の体が同じようになってねぇか 確認して下さいな…


だ
大丈夫ですすいません
いえ
それよりあれをなんとかしねぇと…
妖共め 暴走しやがって 天座の道中が仲間割れしてるのが救いですかね

上からの布達で廃村が再開拓される中であの神木も問屋達に競り売りされたんだ
これが例の木か…
たしかに見事な樟だが…
病にやられて空洞があるそうだぞ
空洞お？ なら建築材や船材に使うのは無理だな
となると樟脳やら樟脳油に使うか？
そのために負うには負担が大きくないか？
廃れてるとはいえ神木だ 御祓しないわけにはいかんだろうし
幕府からはその費用は出んのだろう？
切り出しと ここからの運搬の手間を考えれば足が出てしまうぞ
……
皆様が手を引くなら 私が出しゃばってもよろしいですかな
中村屋さん!?
悪いことは言わんおよしなさいな
それにあんたの商売に使えるのは竹だけでしょうに

霞草っ
透がしてくれたこたぁ感謝してる
けどどうしてもお前らに聞いてほしいことがあって来たんだ
……


人の勝手で木を切っちまったこたぁ本当にすまなかった!!
でもここの人間を殺すのだきゃあ勘弁してやってくれ!!

俺ぁ こんな大店の主人たぁ直接面識はねえが人となりだきゃあ知ってる!
この一件だって悪意があってやったことじゃねえんだよ!

まあまあこの木は中が空洞なんでしょ?
そしたら私の仕事に使える所もあるかもしれないじゃないですか
樟といやあ全体に芳香のある木だ
面白い一本ができそうじゃないですか
それにこんな大きな奇しきし霊木
粗末にしちゃバチがあたる
御上の布達とは言え切っちまうなら
それ相応の礼をせにゃ
長年 鎮守の役を果たしてきた労に報いることもできんでしょう
ざわ
奇特な人よの
自ら損をしようとは
ならばこの件は中村屋さんに任せましょう
ざわ
なんだせっかく見物しに来たのにもう終わっちまったのか
なんて性根のよい人だろう
見物してた俺ですらそう思える御仁だったんだ
そこから先は俺が話そう
ここより先はすでに天網に編みこまれた変えようのない真実――…
ある男がその日の夜ある大工の所にひっそりと使いを出した
「あの薬の話は本当なのか? 玄吉」
「ああ本当だ」
「隣に住んでいる男は真の医者だ」
「傷の診療に行った時偶然立ち聞いたんだが」
「あの医者が刀傷なんかを縫う時に使う薬が」
「ご禁制の阿片と同じ効能があるそうだ」
「――そうかならば玄吉お前 その薬を盗んでこいそうすればお前の言い値の倍の金を払ってやろう」

あからさまに
喜んでいる
気配がする
づっ
後ろから

話の流れで
仕方なくです
沙門様のご用事は
お仕事ですか？
ただの私用？

あ
貴方も
いたのね
こんな所まで
出てくるなんて
めずらしいのね

それじゃ私は
この辺で…
あっ

さぁ…でも
雰囲気からして
和やかな感じでは
なかったから…
中村屋さんの
お身内に不幸が
あったとは
聞かないけれど

奇遇だな！
沙門様が
近くに来られて
いるなんて！

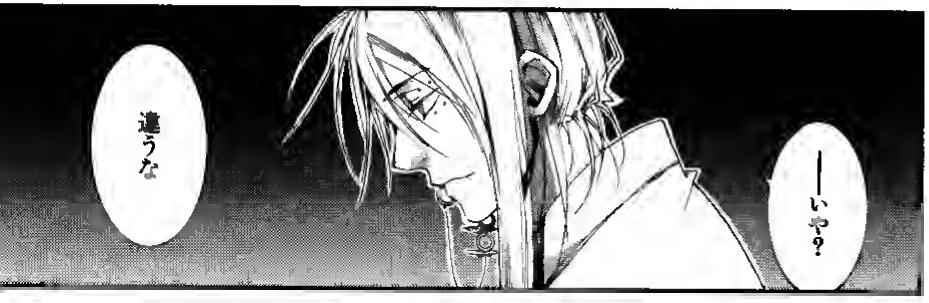
いえ 目は別に…
ただ知人の用で
知人？
——ああ！
じゃあもしかして
沙門と一緒に出て
来てるのかい
え？ 沙門さん？

ねえ 三吉さん
へえ、なんでも
すぐそこの
中村屋さんに
いらしてる
ようで
そこの番頭さん
えらい泡食って
呼びに行って
たんで、よく
覚えてやすよ

おや
違うのかい？
沙門の叔が
ここに出て
来てるって
聞いたけれど

え、じゃあ沙門さんが
この近くに来てる
んですね！

中村屋の旦那さんが
ケガしたのも
祟りのせいなのか!?
あの人は
不信心者じゃ
なかったのに
ああ たしか
不可解な大火傷を
負ったんだっけか?
だったら霊木の
祟りでも
不思議じゃねえな


——いや?
違うな

——…?
露草
お前なら
わからない
はずないな?

あの男にとって
非運だったのは
神主の祓いを受ける前
我が身をかえりみず社を
飛び出した妖が一匹いたことと
巻も悪も
あざむいて 丸太のまま
切り出された荷は蔵の中
その身に神木の祟りが
ふりかかるとは考えない
不信心者だったということか
実に
あっぱれな策
だったわけだが

「ただしそのまま
店に運ぶな」
「最近店の者の
目が厳しい」
「やくざ者も
縄張り荒らしを探してる」

「何 今日ちょうどよい
入れ物を見つけてきた」
「私が切り出しの
先導を取る大木に」
「大きな空洞が
あるそうだ」

「上の方を削って
落とし入れれば
どんな大荷物でも
納まるだろう」
「そうすれば私は正面から
一度に荷物を
回収できる——…」

神木の樹妖は
正しく清められ
枝打ちの後に
執り行われた
祓いの儀で
恨み一つ祟り一つ
残すことなく
天へと還ったと
つまりは
代わってはらす
恨みはなく
お前はただ狐が
愚図っているのに
乗せられただけだ
……
おのれ戯言を
この店の主が火傷こそ
主殿の恨みのあらわれ
いかに戯言を
重ぬようが
その事実こそが
真よ!!
いや そいつの
言う通りなら
蔵が清浄だったことが
納得できる
神木を清めたことで
むしろ荒神として
作用していたんだろう
——じゃあ
まさか……
そう六合の
その通り
番頭を怪しんでいた店主は
蔵にあった丸太から
偶然ある粉を見つける
あわてた店主が
粉を木から
取り出すと
落ちて大量に舞う粉は
足元の提灯の中へ
提灯の火に
吹きつけられた
粉は引火して
連鎖的に
店主の手元の方の
粉まで燃え移り
店主の着物と
元来よく燃える性の
棒に引火した

あぁ
本当に俺には馬鹿の考えはわからない
こら 梵!!
面倒臭がって見捨てようとするでない!!
ちっ!
本気で見捨てる気であったな!!
あやつもこのままでは生きていけぬことくらい理解している!
……っ
我が身を重ね少々感情的になっているだけだ
——…だから人間は嫌なんだ
何も知らずに多くを奪うくせに
同じ顔して他のために泣きやがる
露草
悪い止まってくれ!!
このままじゃお前もあの狐も悪いようにしかならねぇ!!
人も妖も皆辛い思いして死んじまって終わりなんてのは俺あごめんだ!!
頼む!!この通りだ
あの狐を助けてやってくれよ!!

これを天罰とするならそれもいい
が 露草
お前のすべきことは夜行に踊らされている哀れな狐を正気に戻すことだろう
お前までみっともなく踊らされてどうするんだい
うるさい!!お前に何がわかる!!
俺はお前に命令される筋合いはない!!

ここまでか
チーーーン
この鈴の音は……？
まさか
チリーン
頭〃
妖共が〃
チリーン
ゴ
お
チリーン
お
お
チリーン
お
お
チリーン
を
お
チリーン
——……夜行め
失敗作を回収しに来たな
チリーン
失敗作ではない
この者達は天狐と違う先を見た
チリーン
ゆえに天に壊される前に回収するの上

我の問いに
答えうる
ひとつの形

このまま散らすには
惜しいではないか

夜行っ…!!
こいつやっと見つ

うふ

はっ!
よく言うよ

お前に連れて行かれ
自己をなくし
転生もできず

標本扱い
されるより ここで
散らしてやった方が
親切だと思うけど

ならば我が
その命

我が問いの鍵として
用立てようぞ

如何せん
こやつらは
目立ちすぎた
天の怒りは必至

ここで散ったとて
楽土へ導かれる
ことはあるまいて

!!

おい!!
止めろよ梵天!!

何故?

これは君が
望んだ結果でも
あるじゃないか

!?

夜行も言っていたろう
この結果は天網にはない

本来は狐に
ここの家人は全て
一息の間に祟り殺される
はずだった

この場にいるはずの
ない者を連れ

この場にいるはずの
ない俺が手を貸し

この場にいるはずのない
夜行が現れた

これが君の
選択した
結果だよ

満足だろう?

違う!

六合さん!?

危ない!!
掲下がれ!!

こんなものが俺の望んだ形だなんて…
なんの救いもない
俺という形への純粋なる悪意
こわい
こわい
こわい
こわい!!
呪ってやる
呪ってやる
恨めしい
悔しい

うるさい!!
今真希の前にできることなんてねえ!!
徒死にしてえならよそでやれ!!
何してる!!
巻きこまれるぞ!!
馬鹿野郎
くそ
放せ平八

嫌だ！

今様なのか…？
ケン
ケンケン
……っ！

ハア
ハア
間一髪っ…
狼//
おおい
大丈夫か!?

…息はしてる…
瘴気に当てられて
気絶してるだけだ
そ
そうか…

この狐…

しーん

あっはっはっは
これは驚いた
とんだ力技だ
なんの解決にも
なっていないが
情意は伝わるな

梵
この程度の
ものである
か？

一

空五倍子

安心しろ
これで余興は終わりだよ
あの馬鹿共が舞台を再開すればいよいよ本番

罪業!?
おい

それてこそこの布石に意味がある
役者は揃えた

やれやれやはり一度ここで一回休み…かな

これだけの頭数を揃えさせ
お主がやりたかったことはこの程度のことなのであるか?

——ふん
俺はお前のそういう所が気に入ってるよ
空五倍子

夜行
大事な研究材料は回収し損ねたようだな

……
今のはお主の入れ知恵かっ?

ああ そうだ
口惜しがりながら寝床に帰るがいいよ

……
走拘めが

喜劇となるか
悲劇となるか

どちらにせよ
筆をにぎるのは

やはり
〈白紙の者〉だ

……

番頭も他の者も
こちらのご住職が
祓って下さったから
大丈夫だよ

命に
大事はない

旦那様 本当ですよ
その話はっ…!!
俺ぁ見ちまったんです
あの晩…

他にも
寝込んじまった
奴がいるんだろ?

もしかして
このまま死んで
しまうんじゃ…

ざわ
ざわ
ざわ

第二十三夜 高嶺颪の虎落笛

昨晩
そんなことが…

呪いや祟りなど
にわかに信じがたい
ことですが…

そうですか…

番頭のしたことを
思えば…
そういうことも
あるかもしれません

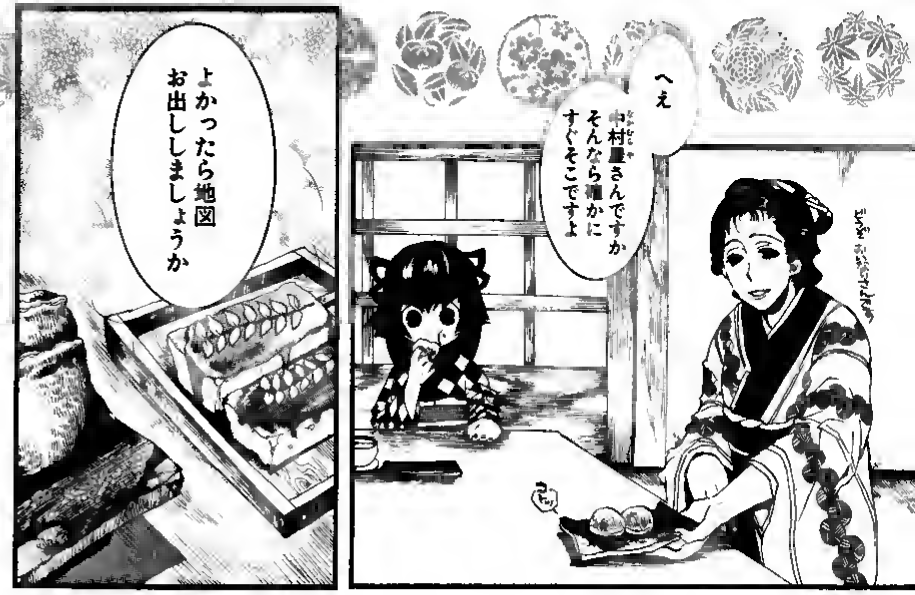
これ
お医者様の
回診用の地図
なんですがね
ここがうちの
薬屋
そんでここが
中村屋さんです
これ、日本橋の
地図ですよね

こちらがもう少し
縮尺を大きく
したもの
ここが日本橋
ここが御城ですね
この辺が兄様達の
向かった内藤新宿
ここが隅田川
ですね

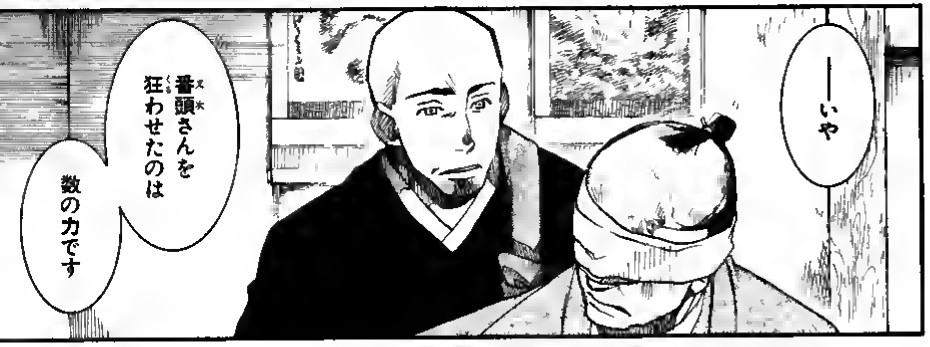
この堀の形…
皇居の堀じゃ…
え
じゃあ江戸城って
今の皇居？
あれ？　この地図どことなく見覚えが

…気にしてない、か

かなわ
ないな――…
なぁ 中村屋って
どの辺だと思う
ん――
覚えて
ないな
うーん
こら


へえ
中村屋さんですか
そんなら確かに
すぐそこですよ
よかったら地図
お出ししましょうか

今度のことで
皆には本当に
迷惑をかけた
今すぐ辞めたい者は
申し出ておくれ
蓄財で
できる限りの
世話はする
そ
そんな旦那様
まさかっ…！
どうせ
近いうちに店は
畳むことになる


たとえ
気がつかなかったとはいえ
この店でご禁制の薬を
売っていたことはたしか
お咎めは
免れまい
昨夜のことも
人々の噂に
なるだろう
そうなれば
客も引いていく

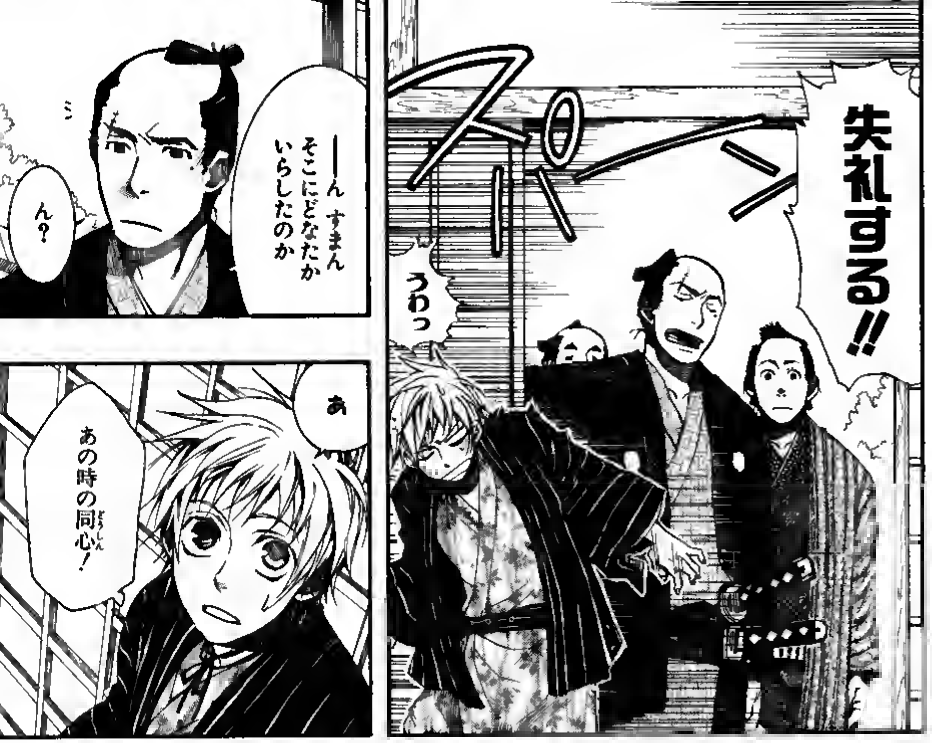
これは番頭一人の
咎ではない
止められなかった
私の咎でもある

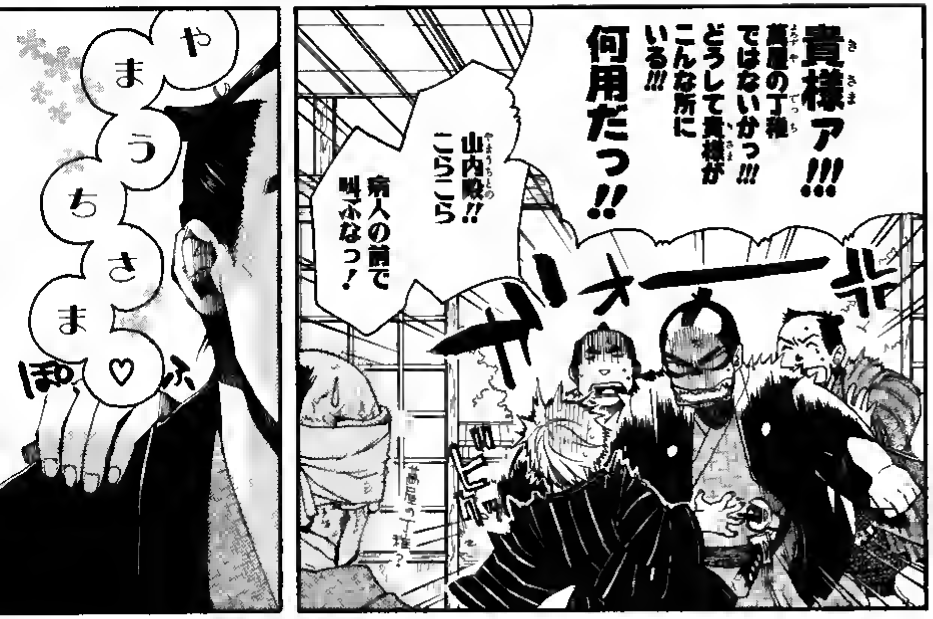
あれをこんな風に
狂わせてしまったのは
この私かもしれん
だが又次がこの店と
私を支え続けて
きてくれたのも事実
あれが狂わせてしまった
人生は幾つあったろう？

——いや
番頭さんを
狂わせたのは
数の力です

一人に売れば一袋一両
二人に売れば二袋二両
数は貯まれば
貯まるほど
数の中身を忘れて
輪郭を曖昧に
してしまう
その数ひとつひとつに
意味があることを
忘れてしまう

第二十三夜
高嶺颪の虎落笛





私が見舞い品の荷物持ちに連れてきたんですよお♡
おぴしっ
ははは
うわぁ——間抜け面♡
あ——それでだなその二人の関係とおぼん
市中の噂について少々店主に確認したいことがあってだな……
ぐりり
……
…おい！
じぃ
とっとと部外者は出ていかんか!!!
へえへえ了解
とっとと
えっ
あっ
さーて行きやしょ行きやしょ
ケチ
あおんないで下さ——い!!
ナニっ切ったっ
黒式冠いい

わ——わ——旦那!!!正気に戻ってくだせぇ——!!
こんな所にどうしていんのかこっちが聞きてぇなぁ旦那市中見廻りのお役目は？
好きで来たのではない!!
同僚が諸事あって役目を辞した関係で別のお役目を仰せつかったのだ！
その者はこちらの又次とは懇意だったと聞いてな
ナンッ!!
——あ
あの様子じゃ番頭の銀
明日にでも伝手のある役人を呼ぶつもりだろう
辞したって…？
しっ
お辞めになったようですねぇ

佐々木さんへの早文が
間に合ってよかった
え
昨夜あれだけ
騒いじまった
でしょう？

ちったぁ周囲も怪しむし
同心も来るだろうと
思ってやしたから
番頭と妙な繋がりのある
同心が来ねえように
お願いしといたんです
じゃあ退職した同僚って
いう人は佐々木さんに…
山内さんは単純で
くそ真面目な方ですから
上の言うことは多少の矛盾も
気付かねぇんですよ

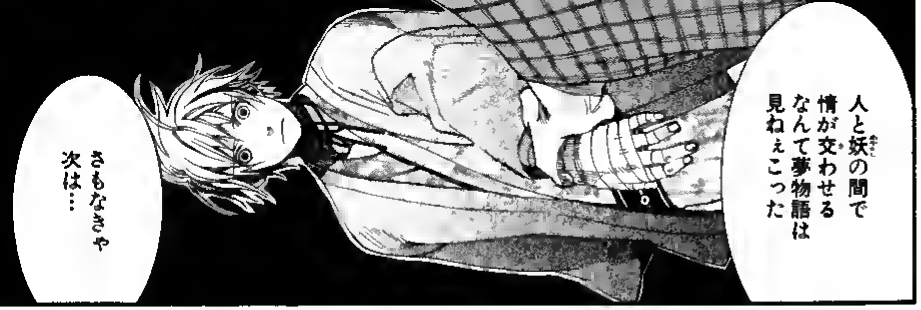
これで
内藤新宿での殺しは
やくざ者の縄張り
争いだと納得し
同僚の汚職事件を
中村屋が白状したままに
処理するでしょう
これで
一件落着って
わけです

——まぁ
もっとも 私としては
六合さん あんたが天座の
連中と仲良くしてらっしゃる件が
また落着して
ねえんですが…？

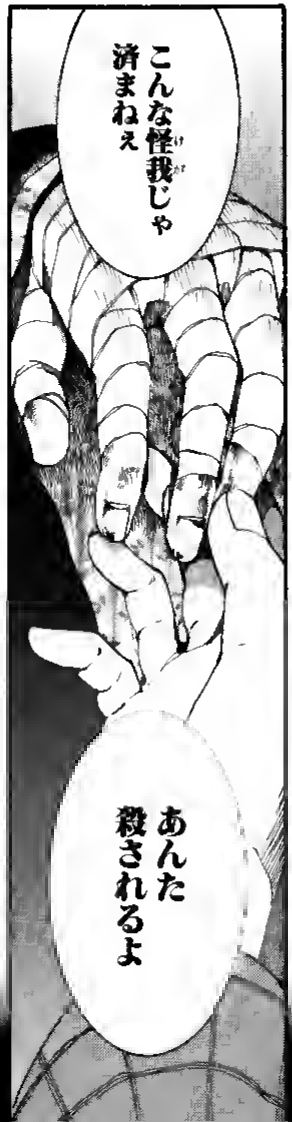
——…やめて下さい
あの人 一応
俺の恩人です…

それはっ

別に
仲良くはっ！
じゃあ今
山内さんを呼んできて
天座の仲間にいた
左腕の入墨の男を
捜し人ですよ と
捕縛させても
かまわねぇと？


人と妖の間で情が交わせるなんて夢物語は見ねぇこった
さもなきゃ次は…

悪いことは言わねぇこっちに戻ってきな
俺ぁ物騒なこたあ嫌いな性質なんだ
後味悪ィ思いはさせねぇでくれよ？


こんな怪我じゃ済まねぇ
あんた殺されるよ

あんたがそっちに行くってんなら
陰陽寮はまずあんたから狙うぜ？

――…六合さん
あんたの力をこの目で見た上で言わせてもらうが

たしかにえらく珍しい力だ
けどそんだけだ
てめえの命ひとつろくに守れやしねぇ
そんなモンは糞の役にも立ちゃあしねぇよ

いいから
静かに!
こっち
来い!!
ぐい
ぐい
ぐい

人の姿を保つ力も尽きたのさ
ほっとけばそのうち勝手に目を覚まして元に戻るよ
その前にばかんなかいよ
せっかく斬った包丁
殺したいのかい？
ほらみろやっぱ今は絶対に安静にしてねぇとじゃねぇか!!!
なんで俺がそいつの体調を優先しなきゃならないんだ？
仲間だろ!?
ガーキ
こんな単細胞が!?
冗談じゃない!!
はっ！

じゃああいつは…
黒龍代わり
ガーン
たたたっ

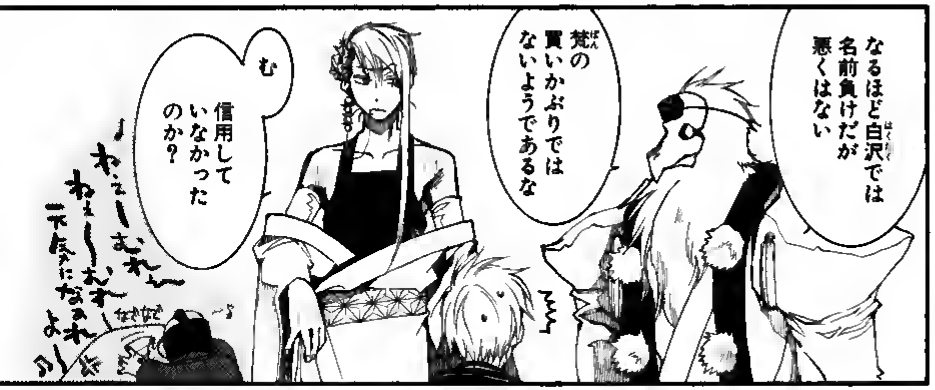
今様！
ふむ
己を救った人間のことはわかるのであるな
！

ぱっ
ぎゃ
何コレぇ
あ

耳もとで叫ぶんじゃねぇよ
きゃ——!!!
ガ
神!!

霹草だ
ぶきゃうっ

あ
あの
六合です
白沢ってのは…
——白沢とは
神智を持つ
神獣の名である
その知識は
この世に遍く
通じておると言う


なるほど白沢では
名前負けだが
悪くはない
梵の
買いかぶりでは
ないようであるな
む
信用して
いなかった
のか？

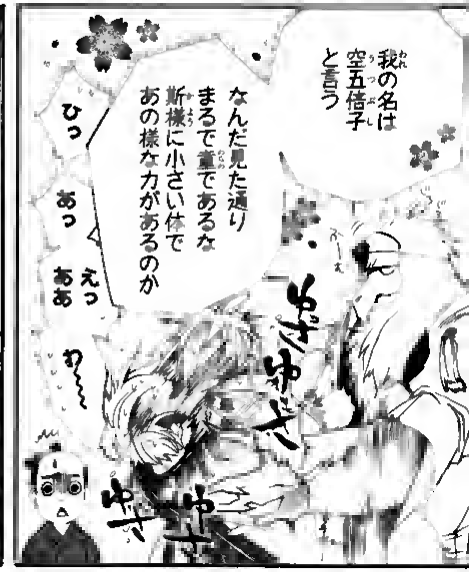
臆病者!?
ムッ
違うとでも？

要は使いようだ
空五倍子
全く己の能力を
生かしきっていない
臆病者だが
唯一無二だからこそ
この俺がわざわざ
構ってやってるんだ

……
！
びくっ

——…こうして
間近で話しをするのは
初めてであるな!!
白沢よ!!
はい!?

やめい！
うお！


我の名は
空五倍子
と言う
なんだ見た通り
まるで童である
斯様に小さい体で
あの様な力があるのか
ひっ
あっ
ああ
えっ
わ～
ゆさゆさ
ゆさ

——…お話しの邪魔でしたかな？
ぴたっ
こちらに沙門殿の知人の皆様がいると聞き一言お礼を…
え
えっ
うっ
うお
落ち着け!! 目が見えてないだろうが！
おや これはまたずいぶんと大柄な御仁のようで…
ま
まぁ
そうだなっ
さっ 先ほどもここの鴨居に何度か頭が当たってなっ
ゆきたけな被害
すり
——ん？
あ すいません
こら今様!!
ははは 子犬ですかな？
なんだい 残念だが菓子はないぞ
ケン
ケン
こら今様！ どきなさい
……
もしかして
今回の一件では
ちらり
見るからに怪しい気配
↓
ぶんぶんぶんぶん
皆様にもご尽力頂いたようでお礼申し上げます
ばたばた
いや 礼にはおよばぬ
…鴉
黙秘。

死にそうになって
蔵の中でもがいていた
私の頭に
ぴしゃりと
冷水のような声が
響きました
――…突に
まかれた
あの時――…
こっちだ!!
私は用心して
ぴっちり扉を閉じて
いたはずなのに
言われるままに
よろけて出た先は
庭でした
そしてふいに背に
夜風を感じました

これかい?
ぱくっ
あっ
こら!!
ははは
いいんですよ
差し上げます
今のは私が
趣味でやっている
木彫りです
あの樟の木片で
作ったのでよい香りが
したんでしょう
樟の前にあったのが
稲荷だったのを
ふと思い出して
作っていたものです
ただの気紛れ
だったんですが…
実は
今回の一件
私が
不思議なことでも
信じる気に
なったのには
理由が
あるんです

そうか　ここは過去の日本なんだっけ

見知った地形があってもおかしくないんだ

御江戸大絵図（鹿児島大学付属図書館所蔵）

ここが隅田川なら

川とか池の名前とか形って変わってないんだ

ここ日本武道館の近くの千鳥ケ淵だよな？

この不忍池辺りが今の上野？

そのうち上野辺りで

小っさい家でも建ててやるさ

禍？

変だな

あ

なんでもない

あちらとのつながりを感じた途端

急に心細くなった

――しかし変だな

沙門様がこんな所にまで出てくるなんて

普通の相談なら寺で受けるはず…

法事でないのなら…

可能性はひとつ

蔵の中も延焼していてもおかしくない事態だったのに
燃えていたのは丸太が一本だけでした
笑って下さい
私はあの木が身代わりになってくれたんじゃないかって
そう思えてならないんですよ
笑える
はずがない
むしろそうであればいい
今様――？
どこだ――？
たくさんすれ違ってわかりあえなくて
つらいことばかりでも
ありがとう
ケン
たったひとつでも

俺はそんな夢を選びたいんだ

眠らされてるのか？
くそっ
おやすみなさい
あいつ何をするつもりだ
父の残せし笛の音に ていほうろうと父を呼ぶ
母の残せし笛の音に ヒュラリー・ヒャーと母を呼ぶ
ひとつは南
ひとつは北
ひとつは東
ひとつは西

カンテンカンテン 憐れな子 哀れな子
カンテン カンテン
カタリのハナに 神は宿られる
笛の音に 神は宿られる
……これは……

バ
外が
父は山へと帰っていった
母は海へと帰っていった
童子は一人残された
哀れ童子 神の子よ
あわれ あわれ
な

中心に
御座すのは尊堂
な
なんだ この重さ はっ…
なっ…
何をしてるんだっ あの野郎
御尊顔 拝する無礼を お許し下さい

第二十四夜 朱のゆずり葉

あのやろう

…一体何してやがんだ!?

天に最も近い地で

童子は笛を高く吹く

おや 面白い
夢に見た
通りのお姿だ

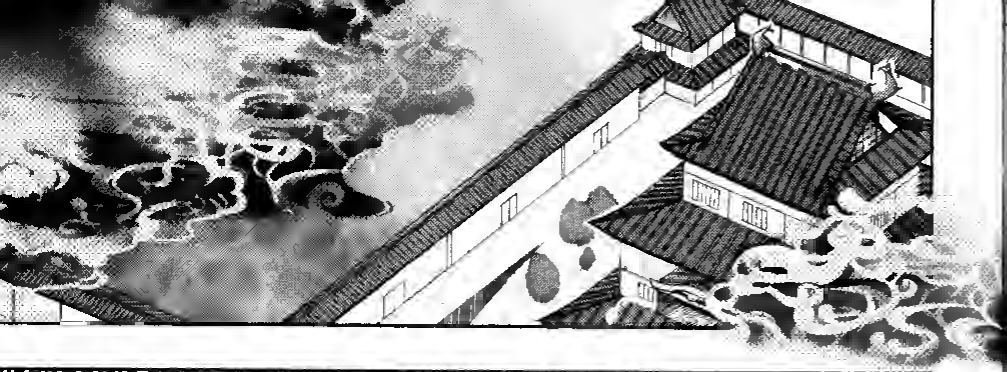
てぃ・ほろろ　ヒュラリー・ヒャー

はじめまして

帝天

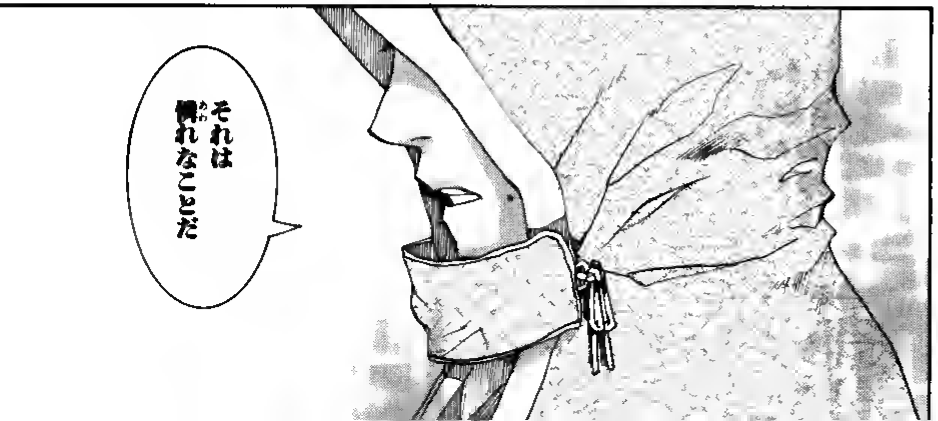
笛を吹いて　父母を　呼ぶ

第二十四夜　朱のゆずり葉



恐れながら
上様 この佐々木
朝廷はいまだ帝天を
天子様の祖とし
あがめよと喧しいが
国の行く末を
天任せにして
何が将軍よ
布石はすでに
幾つか…
…申せ
――そうか
妹御の安全が保障
された故の決心かと
呪われし者とて
長年世話になった
礼の一つも言いたい
ものだが
恐れながら上様

すでに催式は
始まっている
頃合かと…
――ふむ


それは
憐れなことだ

恐れながら
上様 この佐々木
朝廷はいまだ帝天を
天子様の祖とし
あがめよと喧しいが
国の行く末を
天任せにして
何が将軍よ
布石はすでに
幾つか…
…申せ

まず「帝天」と言われしものが
「自らの意志を持つ」
ものなのかを確認し
「是」なら交渉
「否」の場合 または
交渉決裂時には
帝天を「破壊」
する駒を幾つか
用意しております
――…確認？
ということはアレが帝天と
接触することを言んだか

いえ
佐々木さんとか
部下の黒鳶さんに
妖は全部敵だって
…はは
そうだな 奴ら
なら言いかねん
只二郎はなあ…
あれでいて必死なんだ
兄弟三人…いや一族
全体で「幕府を守る」
っていう志を
頑としてつらぬいてる

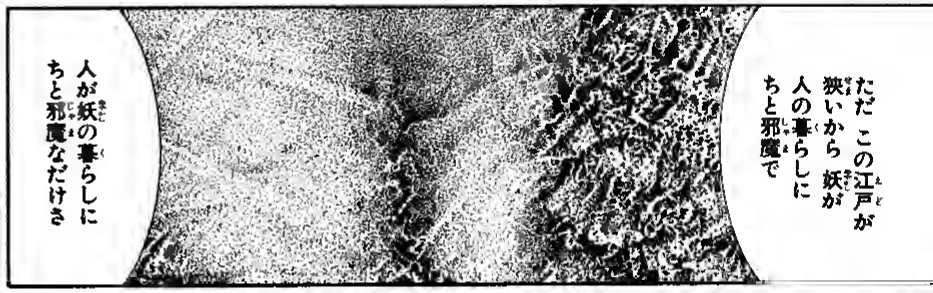
そのためには利用
できるもんはするし
個人の情も志の前
では無視しちまう
んだよなぁ……
——もっとも
それはあいつだけに
限ったことでもない
ようだが…

——実に
惜れだ

仲良し
お前らの
頭は！
——痛
こりゃどういう
事態なんだ？
えーと 俺も
説明に困るんだ
けど…その
スー——ク

——沙門さんは
「妖怪だけど たぶん
あいつらは悪い
奴らじゃない」
って言っても
…怒りま
せんか？
……
——なんだ
朽葉に何か
言われたか？

まぁ
俺が妖退治する以上
あっちから嫌われるのは
仕方ないが
俺は妖を
敵だとは思っちゃ
いない


ただ この江戸が
狭いから 妖が
人の暮らしに
ちと邪魔で
人が妖の暮らしに
ちと邪魔なだけさ

互いに多くは
妥協できないから
完全なる
支配か
完全なる
排除か
それでしか
事を収め
られない

……

だったら「妖」が全部
「敵」とは言えんだろ?

だがうま~く
お互い折り合い
つけられりゃ
掏とこいつらのように
助けあえる

…ですよね

狐は飼い主が
引き取りに来た
みたいだね

退屈な話
だな

そこの坊主
職のわりに
考え方が柔軟で
いいね

妖関係

じゃあまさか
その事件が…

話を聞く限り…
ただの知人への
訪問とも思えない
今までお互い
ほとんど来ることが
なかった所で
沙門様と
用がかぶるのも
……
偶然にしちゃ
できすぎてる…か
確認してみないと
だよね、やっぱり

一緒に
行っていい？
？
どこかに
行くの？

あ――…と えっと
真朱ちゃんは…
……

連れていくのは
ちょっとな…
妖がいるかも
しれないし…

やっ
やだっ!!!
一緒に行く!!

……
真朱ちゃん

お前…
何を企んでいる!?
——…さあ?
?
どういう意味だ?
天はすでに…
——…!

馬鹿な発言だね
世の中不公平なことばかりだよ
悪意は確実に存在しているし
善意はわかりやすい形で与えられるとは限らないんだ
教えろよ!
お前はいつも選べ選べって言うけど
何も教えないでそれは不公平だろ
振り回されたくなければ自分でまず考えろ
その頭が動く限り!
ビシ
ピシッ

だが見落としがあるな
支配権や縄張りを争っているのは人と妖だけじゃないよ
ひとつは「人」
ひとつは「妖」
もうひとつは「天」だ

俺達の上には
天がいて
天が「知らない」のは
君だけで常に俺達は
見られている
一言一句見られている
それでも君は俺に
何もかもべらべら
話せと言うのかい？
――聞かれたら
まずいのか？
わっ
まだ
わからないのか？
行って奴は
露草が目覚めて
姫の呪いを解くまで
まだ時間がある
ここでなら
話してやろう
はるか高みの
王座から
下界を見下ろす
意志ある
存在のこと
俺の言う天とは
坊主達の言う神や仏
のことじゃない
俺は以前
ここと同じ
「狭間の場所」で
言に「姫と俺
どちらを選ぶか」
を聞いた
それは
その問いの言葉を
帝天に聞かれたく
なかったからだ
言葉の意味を　理解していたかい？

人は妖を嫌悪し
天の支配に無知だ
天は人を見守り
妖を監視する
妖は人を憎み
天の仕打ちを恨む
人と妖の一部は
「あること」に気付き
天に消された
三つの力関係は
安定し 天の走狗は
崩す者を許さない
一部は答えを
特権と交換し
口を閉ざした

！
「なぜ人と妖は
争うのか」
「そもそも妖と人は
どう違うのか」
「天とは
なんなのか」

巫女よ
何故に
何故天に逆らうか
何故大恩を忘れるか
何故網を守らぬか
何故!!
ゴゴゴゴ
何故
何故天に弓引くか!
何故!!
何故!!
ゴゴゴゴ

「共通の敵は」
あなたが必要でないからだ
「帝天ではないか」
君を帝天にしたいのさ
——なんてことを!!
お前達…正気か!?
何が禁気じゃねぇか!
したりでなければ荒の下に集いはせん
——…
姫は天網と帝天つまりはこの世の破壊を望む
俺はこの世を守りながら

笑止!!
――!!
悲悲を乞え
引き返せ
神も仏も入り乱れて
まぁ大所帯だこと
今なら
許す
いかに
巫女よ
ドド
ドド
約束が
すっ…
あるんです

御身でお試し下さいませ
貴方が私に与えて下さった力
貴様…！我らと融合するつもりか…!!!
貴様あ!!!この様なことをしても なんにもならんぞ!!
かもしれない けれど何かに なるかもしれない
見知った先より…
私は何も知らぬ未来を望む!!!

「緩やかな荒廃を待つより」
!?
「前に進もう」って
!!
なっ!?何を…

天…？
!?
なんだ…!?
ドン
——…これは…？
ゴゴゴ

痴れ者が!!
残念だ
この声
帝
目にかけて育てたのに
この選択は
うまくない

初出：月刊コミックZERO-SUM平成18年3月号、4月号、6～9月号

あまつきあとがき

参考文献 図説 言の葉 江戸かたち 日本美術 書物の宇宙 大江戸八百八町 江戸東京博物館 大江戸八百八町 知の歩き方 石川英輔 安養寺日栄社 民家と町並 小学館
はまゆう 日月之三月がれがうまく 幽玄事務所乃事件簿 三冬ユム 本の雑誌 雑学の友社 日本の紋章 エクスナレッジ 京の庭園 水野克比古 光村推古書院

梵天

貴方と出逢った あの遠い冬

あまつき4 おわり

真朱もっ
真朱だって何かしたい
おいてかないで
一人にしないで
…ならば私一人で行くか
えっ!! だめだよ朽葉!!
皆で行けはいいの!!
うるさい、お前みたいなのを連れていけるか
どーレて!? なんで?
だから妖がいるかもしれないだろう
そういう問題じゃないっ!!
怖くないもん!!
18
真朱はっ
聞きわけのない奴だなっ…!!!
足手まといだと言ってるんだ!!!
足手まといじゃないもん!!!
おおも?
おおおお
おいおい色男止めねえでいいのかい?
伊達男は辛いねぇ
ヒュ〜ン
これ佐吉! お客様に、なんて口のきき方ですか
へぇすいやせんお嬢さん でもこのままじゃ表にまで聞こえちまいますぜ
19

井筒/井筒法花店/戦国時代MAP/大江戸編/新創社編/光村博告堂院/江戸時代の科学技術/お上意識歴史博物館/日本史綺聞/一度あす伸出版様式会社
花とみりのことは/幻久舎/個人的色/光林社出版/続 三種の風景/野呂恵/葛飾社/ファミポイント/白え出版版/日本 中国の古様草紙/湘南コミ/編集部

日本の古本屋神神社/漫女社/大江戸漫画家/ラスボス組/小リイド社/和の国手帖/引越荷物/石田純子/ガラクタ社/妖怪の本/印字研/散布噂

END 2006 TAKATAMA

銀朱と梵天、二つの運命がここで出会う。
衝撃の過去編、始動――――。

あまつき5

来春発売予定!!

B6判／定価580円（税込）

ZERO-SUM COMICS

あまつき

4

2006年11月15日　初版発行

著者／高山しのぶ

発行者／杉野庸介

担当編集／君島彩子

発行所／株式会社一迅社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-10　成信ビル8F
電話　03-5312-6851（編集）
電話　03-5312-6150（営業）

印刷・製本／凸版印刷株式会社

装幀／星野いづみ

本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁・乱丁本は株式会社一迅社販売部までお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

ISBN-7580-5243-3
©高山しのぶ／一迅社2006　Printed in JAPAN

IDコミックス

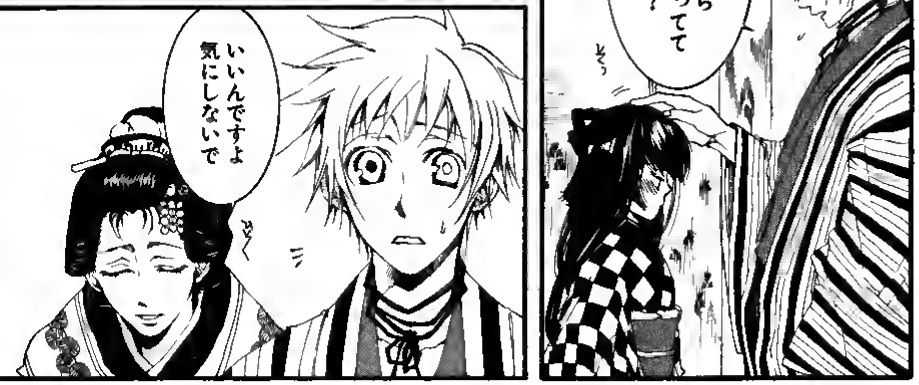
●この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには関係ありません。

そうね ではここらで
そろそろ止めて
いただきましょう
お二人は大事な用が
できたそうなので
お出かけになるそうよ
お見送りして
えっ

やだっ
私もっ!!
お聞き分け下さいな
お姫様? 本当はご自分でも
わかっているのでしょう?
自分はここに残って
揚さんと朽葉さんが
二人で行動した方が
いいってことくらい
ね?

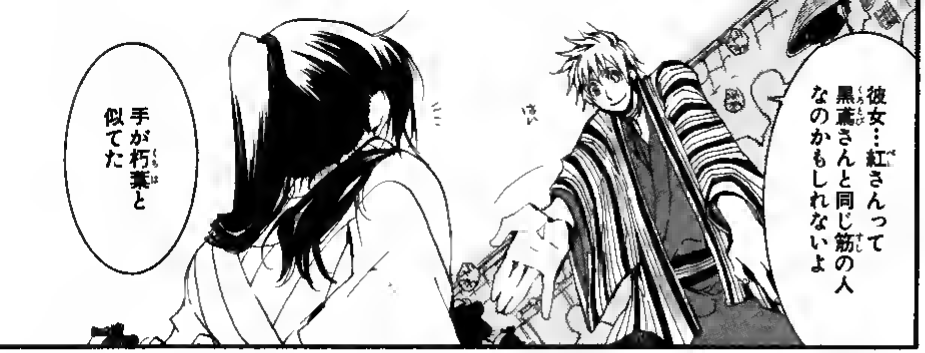
お二人もなるべく
お早めに戻って下さいね
お二人がいなくても
兄様に怒られてしまい
そうですし
あ
はい
あの、でも
本当に
いいんですか
——その…
紅です
おまかせ
下さいませ

ぷいっ
…ごめんね
真朱ちゃん
すぐ戻るから
少しだけ待ってて
くれるかな?
そう


いいんですよ
気にしないで
ぷく

貴方がとても
甘やかしてくれるから
無意識に
銀朱様と重ねて
わがままになって
いらっしゃるんですよ

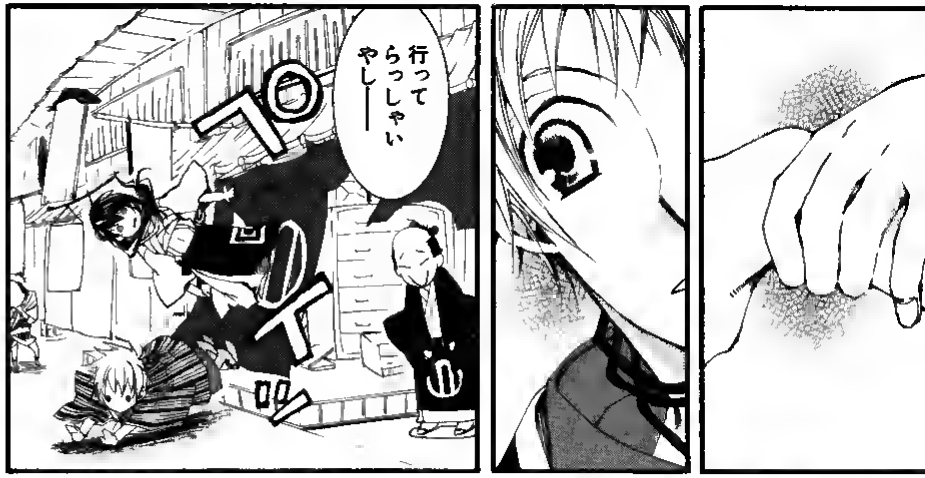
紅さん…


彼女…紅さんって
黒蔵さんと同じ筋の人
なのかもしれないよ
手が朽葉と
似てた

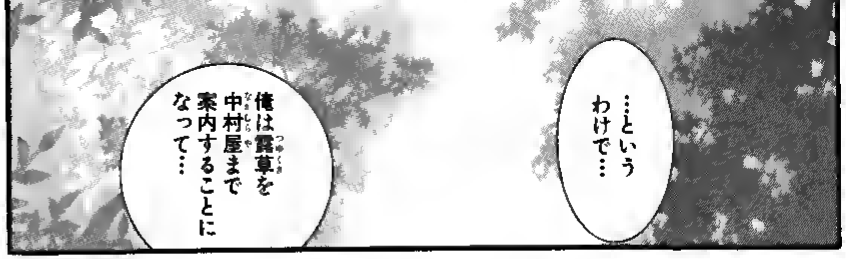
――私の手？
そう
いくら働き者の看板娘でも
いいとこのお嬢様は
こんなに
しっかりした手は
してないと思うよ

なるほど
刀をにぎるので
豆ができたりして
固い
……
納得は
したが
なんか
いやらしい
えっ
なんだ?
なんとなく

さぁ!!
そうと決めたら
すぐ行動!!
えっ
あ
へっ!
佐吉――
お客様
出ますよ――
へーい


行って
らっしゃい
やし――

いてててて
――うん
もしかしたら
俺がついてるより
かえって安全なんじゃ
ないかな
…けど本当に
よかったのか?
側についてなくて


…という
わけで…
俺は露草を
中村屋まで
案内することに
なって…

その途中で…
化物に遇って…
お——ん?

あのぉ
すっごく
話しにくいん
ですけど…
やめろ煤竹
お前と露草の
関係については
まあ分かった

やはりあの狐と
行動を共にして
いるようであるな
ヤれヤれ

だったら
その狐見つけて
ぶんなぐって
やりゃ
解決じゃねぇか
ちゃ
「きゃ」「きゃ」

空五倍子
匂いか気配で
追えるか?

無理だな
直接会ったことが
ないので
判別がつかん
なら
人の血の匂いで
追えないか?
この隣の男の方が
血生臭くて
分からんな
あア!?
俺が臭いってか!?

——なあ梵?
露草を見つけて
手を貸すのか?
連れ帰るのか?
何もかも、お前は
自分一人で決めて
私らにも言わん
水臭いと
思わんのか
もし その狐の
手助けをあやつが
していたら
どうするのだ?

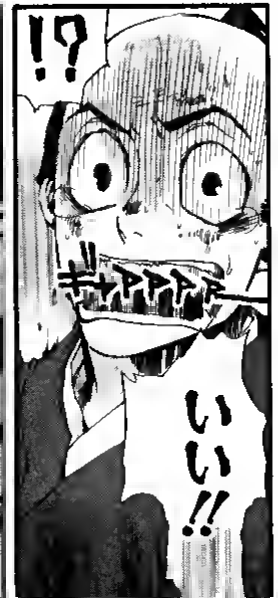
な
なぁ
それじゃ
あいつの
とこに行くのか!?
だったら俺、手がかりに
なるかわかんねぇけど
話すから協力させてくれ

ぎゃっ!!

べぇ

話す
必要はない

いつまでも
見事ですな
あーまーよ


!?
ギャアアア
いい!!

これを見た方が
早い

ひそ
あの…
ひそ
ひそ
ひそ
ひそ
すいませ
御用でしたら
私がお伺いしますよ
番頭の又次
と申します
どうぞ奥へ
ぎゃ
ぎゃ
ぎゃ

な、なんだこれっ
今の平八さんと……妖!?
まさかっ……!!
また梵天がっ……!?
どうした 鳴?

――困りますよ
店の表で
あのような…
変な噂が
立ちはじめているようで
こちらも困ってるんです
はぁ
すいません…

それに…
本当にご住職の
お知り合いで?

はぁ
いちおう…
俺達すごい
怪しまれてるな
まあ普通は
そうだろう
寺屋がおかいだ
ふん

いや、すいません
他意はないのですが
ええ 何やら…
変わったご趣味の
ようで少々…
――いいえ
慣れてますので
お気にせず

人の血や恨みは
理性を失わせる
主に会う前に
そうなっていいのか
この身崩れは
止まりませぬ
穢れは妖に
大きな力を
与えもする
夜行殿が下された
力とは即ち穢れ
その辺にしておけ
それ以上やれば
穢れがつくぞ

第二十夜 木の暗茂

……
人間にしちゃ
面白い奴だったが
もう二度と
会うこともねぇにろう
しゃあな
平八
ま
まってくれ
俺はまだ
お前らに
言わなぎゃなんねぇことが——!!

バカ
やろうがっ…
呪符だ
力だけは
一応ある奴が
書いたもんだから
形を保つくらいの
役には立つ
使え
——…
どこも大したこと
ないな
このくらいなら
俺でも治せる
バタ

やはりか…
後先考えぬ奴め
ア

あ、あのやっぱあれってまずいことだったんかい
お戻った
さてね 奴がそのうち消失する程度のことだよ

そ!? それって!! まずいんじゃねぇか!!
うるさい 黙れ
殴るぞ
空五倍子!! 煤竹!! あの鳥籠は日本橋だ!! 悠立たしいが急ぐぞ!

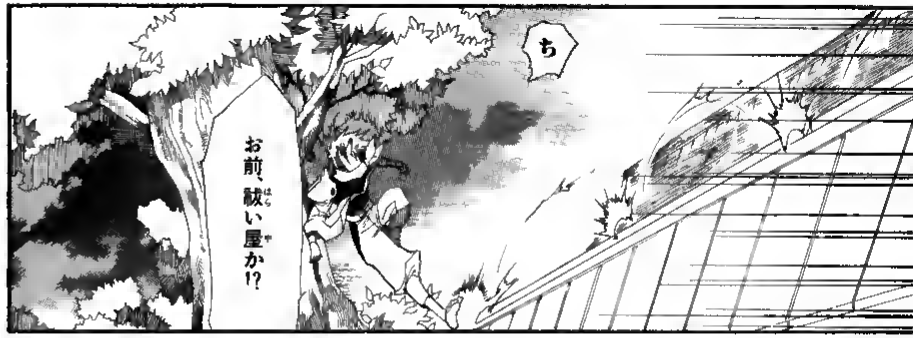
あんの単細胞!!
俺が書いてやった符を破って、他にやっただと!?

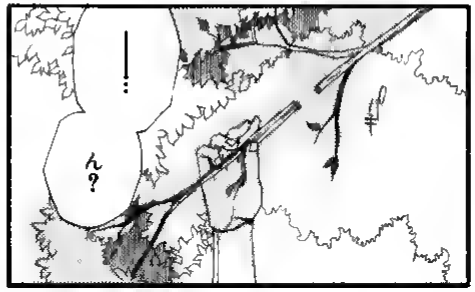
第二十夜 木の暗茂

日本橋辺りの地理が分かる物はないかい
しっかしあのガキそんな所にいたのか　道いな――
ん
おおじゃあ地図やるよ
空五倍子
急ぎ日本橋まで飛んでくれ
うむ…
うむ…
それはいいが…何人運ぶのだ？
……
俺も俺も俺も俺も俺も
ぎゅう
……
分かった分かった何人でも運んでやる
お前
六合掏時という人間を知っているな
!!
あんた掏を知ってるのか!?
やはりな
彼が関係してることなら俺とて気を引き締めていかないと危ないな
では露草も…
――まあ邪険にはしないだろう
俺がいくまで子守りを頼むよ
六合
あの左目なら
俺と同じモノが見えていただろうからな

朽葉!!

おい、そこの
中村屋っつうのは
ここであってるな?
朽葉?


ち
お前、畝い屋か!?

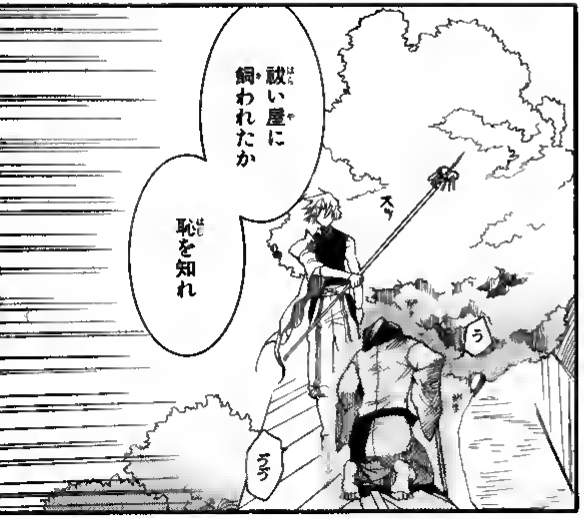

!!
ん?

青様のような妖がこの店になんの用だ!!
返答次第では次は本当に斬るぞ!

犬臭い
なんだお前
混じり者か

人に飼い慣らされれば狼もただの狗か
これほど格の違いを嗅ぎ分けられなくなるとはな

うあ
あっ


畝い屋に飼われたか
恥を知れ
う
うう

ガキン
ガキン
ガキン
くっ
妖ごときにっ…
ったく
じゃれつくんじゃねぇよ
煩しい
やめろ
露草!!
……
お前
う
ううう

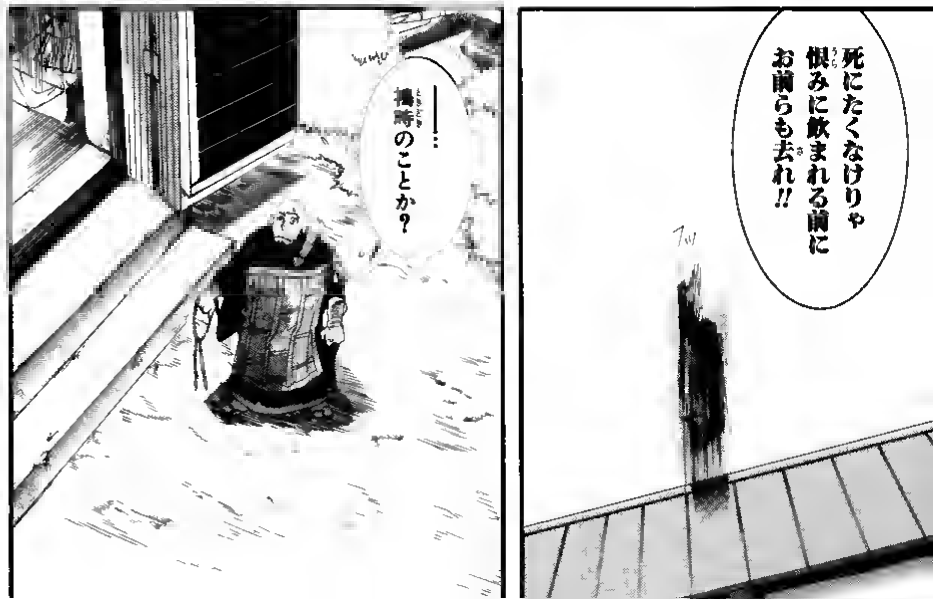
ぐあ
暴徒に入れ!!
早く!!
沙門さんってうわっ
お前も入れ!!
ひっ!?

何故俺の名を知っている?
——さあね
俺も知らないけどあんたが妖なら
理由は梵天に聞く方が早いと思うよ
——!!
お前っ
白沢かっ!!
鴇!! 朽葉!!! 逃げなさい!!!

あ
あんた達
何やってんだい
さっきの奴は
なんだ!?
朽葉?
こんな所で
斬り合いなんて
冗談じゃないよ
う
うううう
!!

今の騒ぎが
表にまで聞かれてたら
どうしてくれるんだい
困ると
言ったろう
ああもう
上げるんじゃ
なかったよ!!

このっ…!!
くそ坊主!!!
うわっちゃ
秘蔵の数珠ひとつ
使っても駄目か
坊主
さっきの奴に
言っとけ
ー
今のうちに逃げねぇなら
お前も特別扱いは
しねえってな
?


死にたくなけりゃ
恨みに飲まれる前に
お前らも去れ!!
……
楊時のことか?

少し黙っててくれませんか
なっ

さっきのは妖です
彼女は追い払ってくれたんですよ
……
は？

何を言ってるんだただのガキだったじゃないか
あんたらもしかして坊主と四人でグルなんじゃないかい

それで妖がなんだと言って、たかろうって魂胆なんだろう
な
ちょっと何勝手なこと言ってっ…
ああ焦っていたからってあんな坊主に頼るんじゃなかった
大事な商談があったってのに…
妙な噂のせいで役人でも来たら
役人に見られちゃ困るもんでも？

それもかなり強力な妖です
だから人間にしか見えなかったじゃないか
は？
だから強力だと言っているんです

あれは本当に妖ですよ
!?

妖っていうのは元来朧な存在ですから
より人に近くより実体に
妖を見れぬ人間にすら見えるモノこそが一番強い妖なんですよ

あんなモノの恨みを買うなんてまぁ…
あんたらこそ一体何やってんです
しっ
知りませんよそんな!!

蔵の奥の大きな丸太あれはどうしました？
！
キィ!!!

あ
あれは内藤新宿の材木屋から仕入れて裏の長屋の職人に回すもんですよ
丸太に大穴開けて木片で蓋して
本当に仕入れたかったのはこの粉じゃないのか
阿片!?
煙草と混ぜるかそのまま売るかは分からんが
こりゃ御禁制のやばい薬じゃねぇのか
では
これに見覚えは?
!?
うあ
だっ
妖の恨みはどこで買ったか知らんが人の恨みだけはたっぷり買ってそうですな
だっ 誰か!!! 誰かー!!!
盗人だぞ!!! 捕えろー!!!
!?
どうしました 番頭さん
この野郎 ふてぇ奴らだ ひっとらえろ!!
おわわわわわ 予定外の展開ー!!
斬りますか!?
だめだよ 朽葉ー!!
おいこっちだ!!
皆出てこい!!
蔵にでも閉じこめておけ

しばらくそこに
入ってもらうよ
あいて
…あんたが主人に
怪我させたのかい
冗談じゃない!!
私は商いはすれど
人様に手を出したことは
ございませんよ!
まぁ、他の目撃者も
いるわけだし
あいつがやったわけじゃ
ねぇだろうな
うーむ
沙門様
これは一体?
この家の妖退治に
来てたんじゃ
ないんですか?
俺はここの主人とは
懇意にしてたんだが
最近店の様子が
妙だわ、客の柄は
悪くなる一方だわで
心配していた矢先に
そいつが火の気のない
蔵で大火傷を
負ったと聞いてな
奇っ怪な事件だから
俺が呼ばれたんだが
確かに母屋には
雑妖が多い
だがこの蔵には
一匹もいない
火が出た
理由が分からなくて
探っていた時に
あれを見つけた
…あれが丸太?
やけに
焼けこげて
いませんか
うむ
だからあれが原因かと
調べたら
妖以外のもんを
見つけてな

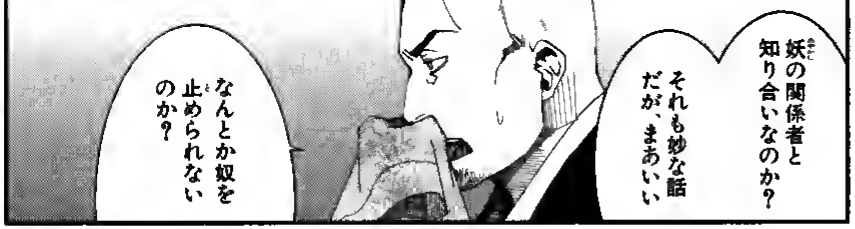
では蔵の中の方がむしろ安全だと？
うむ
ただ、お前達今は口と鼻に布を当てておけ
蔵の中はあの粉の袋が破れて充満した跡がある

扉が閉められちまった今下手に吸い込みかねん
早めに出る方法を見つけないとな

それと掏正直に言え
さっきの奴は何者だ知り合いなんだろう

いえ
そういうわけじゃ…ただ多分
知ってる奴の関係者なのかもしれないってだけで…
この左目がもし梵天の奴の仕業なら

気のいい知人が本当に巻き込まれているかもしれない

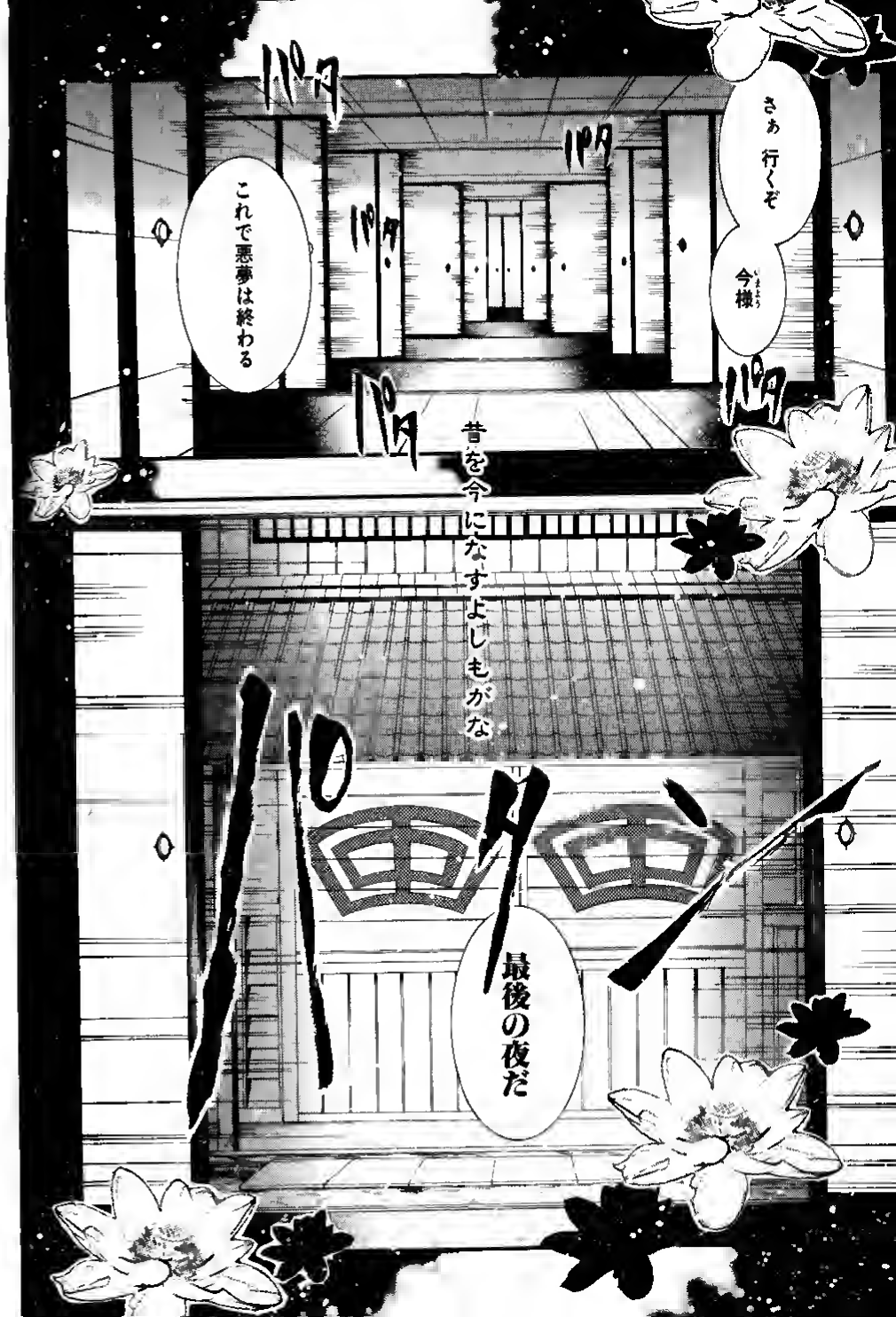

妖の関係者と知り合いなのか？
それも妙な話だが、まあいい
なんとか奴を止められないのか？

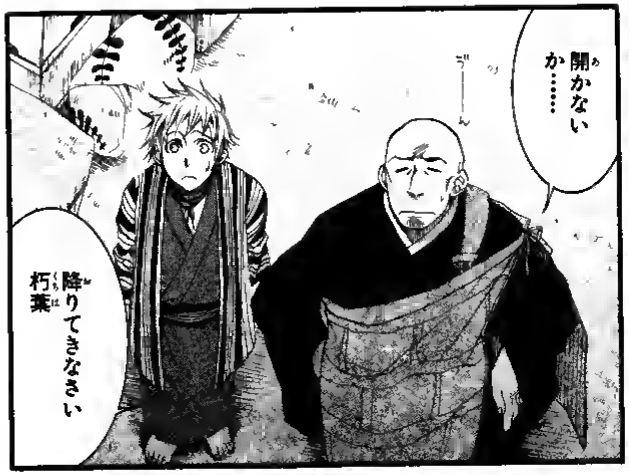
あの様子じゃ番頭の奴
明日にでも伝手のある役人を呼ぶつもりだろう
それまでこっから出すつもりはないんだろうが
それじゃまずい
あの妖はすぐに戻ってくる
もし本気で人に手を出そうとするなら

守りようがない
誰かが
殺されるかもしれん

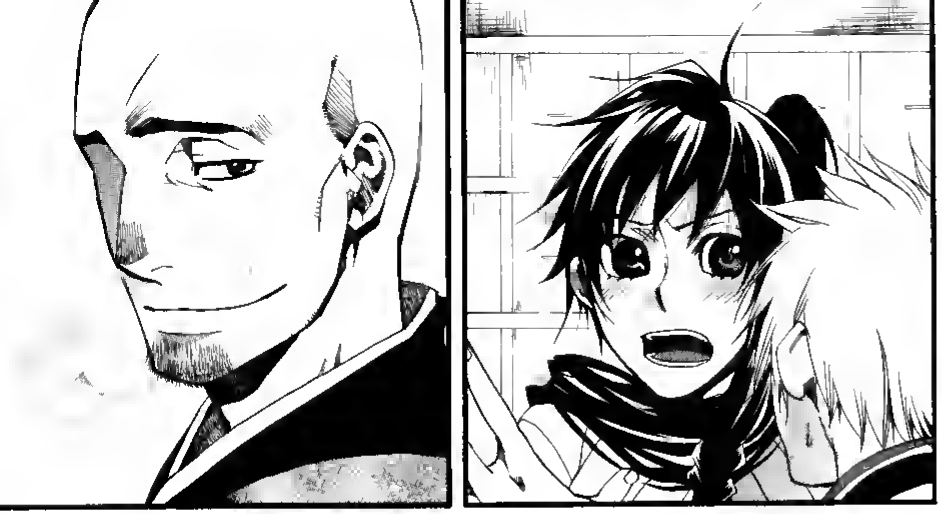
露草
お前は私の宿り木
いわば親だね
いにしへの
妖の契りは絶対
ひとつのをたまき
繰りかへし
お前を残して
消えはしないよ
——本当に
バカだなぁ
お前らは…
くそ やっぱり半分じゃ
梵の書でも無理か…
いいえ
大丈夫
主殿を取り戻すまでは
消えませぬ
——今様!!
店を見つけて
きたぞ!!
ぺた
ぺた
ぺた
ぺた
ありがたや
おや
レッ
お怪我を…?
ペたり
ペたり
大事ない
…立てるか?
レッ
はい

第二十一夜
児手柏の両面





ふーむ
こうなると
本当にお手上げだな
すとっ
うおっと
ばっ
ばっ
ばっ



青ったなぁ——
様にですが!!?
…うーんまぁそれもあるけど
えっ
子供の頃と比べてって話だ
ほ

…食わんのか?
……
…食わんなら俺が食うぞ

!
ぼっ
がつがつ
……

——ふん

！
……
それを奪われれば
そりゃあ怒りますよね
妖だって
さっき
左目で見えたなんて言って
狐の妖とか平八さんとかのこと
説明しても意味不明
だろうしなぁ
…どういう
意味だ？
さっきの
妖のことか？
のあっまに
出たっ!!
あ
いえ そうじゃ
なくって…！

あ
そうか
ん？
あ
いや
沙門さんを見てて
知り合いを
思い出して
ふうん？
なるほど
誰か聞いても
いいか？
最近よく
思い出す
はずだ
保護者っていうか
……兄貴分かなァ

いいことも悪いことも
教えてくれた人です
たぶん 人から見れば
ろくでなしだったろうけど
沙門さんに少し
似てました
どれだけ
悪態を
つこうとも
家族です
帰るべき
黒
黒

それが妖祓いというものです
――…
朽葉？
しゃりん
仇を討て
人を喰え
ああ恋しや
彼の人の
無念想えば
また悲し

な
なんでもないです
説明が面倒になってあきらめたな
うっ!!

なんだかわからんが妖にもそれだけ情緒があるなら仇討ちもあり得る話だな
女狐なんかは特に情感細やかだと言われているし…

仇が仇を呼び
恨みが恨みを呼ぶ
因果な流れは人も妖も区別しないのだろうな

――…ならば妖を全て断ち切るまでです
何が原因なのかなど関係はない

退くならよし
沙門様の前に立つならば敵
人なら峰で
妖なら刃で排除する

集え同胞
依木持ちたる
仇ある者へ群がり群がり
呪蛭のたくりて
役目を果せ
み山隠れの
朽木の祉に
宿り狐残し
奇き霊木
邇迩に
ヤァーレ
里に下りて
神となる
サァ
天座から狗が来た
兎共を噛み殺し
奇き霊木 神となす
まずい
もう戻って
来たのか!!
!?
妖ですか?
しかもお仲間を
引き連れて来たな
?

どこだ
どこだ
どこに
隠した
依木を探せ
おい！
水が遅いぞ！
まだか！
!?
おい!?
なんだ!?
どうした！
しっかりしろ!!
！
どこに
隠した 兎共
天座の御前に
奉れ

な
なんだ!?
貴様ら…!
なのことだっ…!!
御狐の宿り木殿じゃあ
どこに隠したぁ
宿り木…? 木…?
きっ木ならっ…
仕入れた物は
全部…っ
そっそこの
くっ蔵にっ…
しまって
ぐふっ
見つけたもんにゃ
褒美が出るぞ
急げ
急げ
あそこじゃ
あそこだ!
〃
来ます!
うおっ!?
うわっ
コホッ
コホッ
コホッ
扉を…
突き破ろうと
してるのか!

二人とも伏せて!!
まさか――!!

扉から入って来れないということは…っ
半実体化してるんだな
外にいる店の人間も危ないぞ!!
しかし
ゲホッ
ゴホッ
前が見えっ

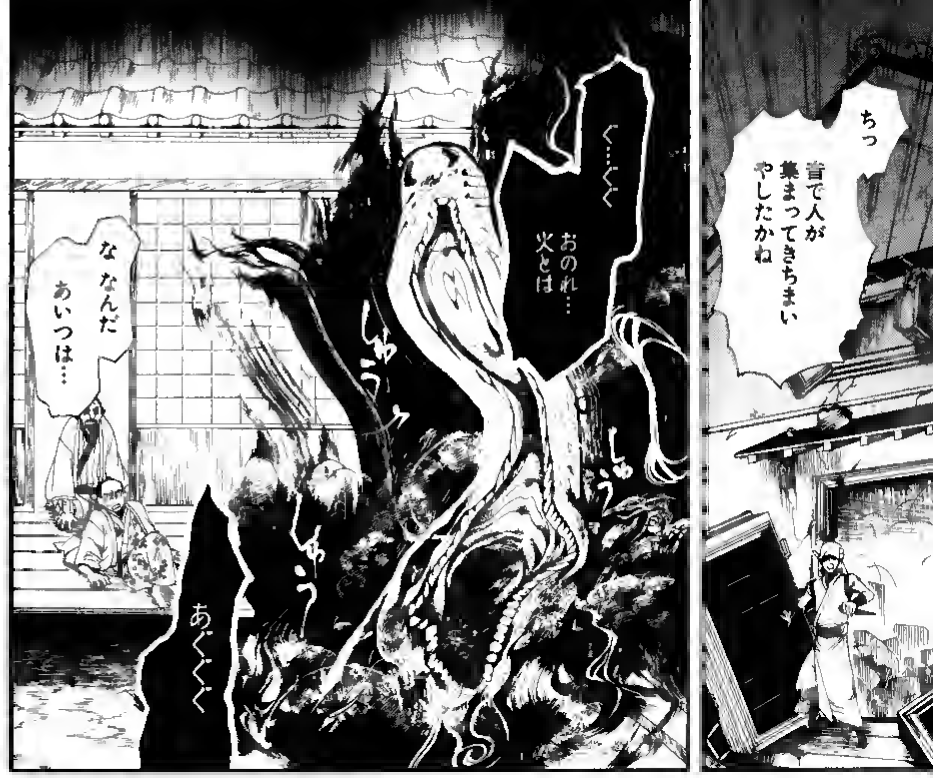
均一な微粒子
木炭での除湿による乾燥
俺はここの主人とは親戚にしてたんだが
最近病気の娘さんが寝込んだわ、客の前は暗くなる一方だわで心配していた矢先に
そいつが火の気のない蔵で大火事を負ったと聞いてな
火が消えた理由が分からなくて悩んでいた時に
酸素
おれを見つけ

ぜほっ
おい…っ
お前達
大丈夫かっ…
ぜほっ
耳が…
なんだ今のはっ
あれ？
すごい音
だったのに
特に
なんともな…
い!?
ぎーん
怪我は
ないかえ
は
はい!?
どっ…
どちら様で…

パラ
パラ
…うっ…

あ――あせった――
間一髪で
間に合いましたかね
ガラ
ラミ
皆さん ちゃんと
ご無事で？
ああ
よかった 全員
元気そうですね
安心して下せえ
その鼠は
私のなんで
黒蜜さん!!
鶴梅さんと
出かけて
たんじゃ…？
行って来やしたよ――？
あの人便利なもの
持ってらっしゃるから
早い早い
戻ってみれば
あなた方はいないし
かけつけてみりゃ
妖大行進だし
もう驚いたの
なんのって
この鼠は
なんなんだ？
とん
子飼いの妖ですよ
火鼠って種です
合図ひとつで
駆けつけてくれる
可愛い奴です
知りません？ 竹取物語
姫がこれの皮を
阿倍右大臣に
ねだったってやつ
こいつの皮はね
ずば抜けて
頑丈なんです
ええと
じゃあ…
ありがとう
ございました……？
ふふ
どういたし
まして
ま 実際は
私の力じゃありやせん
私はただ妖を
使えるってだけ
なんでねぇ
――！
うぁあああ!!!

キャスターがくり返し
報道し続けていた
「テレビの中の」大事件
先月都心で これが原因の
大事故があったから
よくニュースで特集されて
まさか実体験する
羽目に陥るとは
思わなかったけど…
「あまつき」に来てから
そんな「羽目に陥る」
ことばかりだ
おのれぇ
人間め
へぇ…？
ここらの浪漫や
そんなことを言いましたけど
！


ちっ
音で人が
集まってきちまい
やしたかね
く…くく
おのれ…
火とは
なんだ
あいつは…
しゅう
しゅう
しゅう
あくくく

おやぁ？
今の爆発…
あいつらの
仕業じゃあ
ないのか…？
違います
あれはたぶん
粉塵爆発って
いうやつです
小麦粉やホットケーキ
ミックスでも起きる
自然現象っていうか…
だから
あの妖は
関係ないんです
へぇ？
そうなんで？
よくご存じで

我が主の身を削り
枝をもぎ
身の内に
毒を詰め
神木と崇めて
おきながら
最期には無惨にも
切り倒した
その罪
万死に値する!!

こいつの主が
神木――!?
じゃああの丸太、神木だったのか!?
なのに玄吉はそこに
麻薬を隠してて
丸太を買い取った中村屋の番頭は
その麻薬を主人の目を盗んで
売っていた――!?
番頭の丈次と申します
どうぞ奥へ
なんでそんなことを――!

何をしてる!!
下がれ!!
おやおや頼もしい
剣士様だ
けど
その前に少し
こいつらに訊きたい
ことがあるんで
待って下さいな

てめえら
内藤新宿でも
同しことしたな?
玄吉って大工を
こんな風に多勢で
押しかけて殺したろう
また臭ってたぜぇ?
お前らのこの
獣臭い妖気がよぉ
名など
知らぬ
知りもせぬ
ただ殺すのは
主の仇

……
ああ
そうかい
ようく
わかったよ
待って下さい!!
——…おやおや
こりゃ六合さんは
お優しい
こいつらに
同情なさるわけで?
そんじゃひとつ
こんな話はどうです
あの
殺すことは
ないんじゃ
ないですか?
だって!!
そいつが本当に
悪いわけじゃなくて
むしろそいつは
悪いことしてた人に
大切なものを
傷付けられたから…!
こいつらに殺された
玄吉って男にゃ
恋女房の
忘れ形見で可愛い
一人娘がいたんでさァ
私らには
よくある話でも
男には
紛れもない現実
よくある話で
母に似て病弱な娘が
大病を患っちまった
今すぐ大金を
作るため 父は
麻薬を運ぶ仕事を
引き受けちまった
さぁて困った
同じ罪人同じ罪妖
これじゃあ
どっちも
可哀相だ
そんな理由で
納得して刀を
収められんなら
天下太平
楽なもんです
……
同情誘う余地なんざ
探しゃどこにでも
転がってんですよ

ふん!!
相変わらず
姑息(こそく)な術を
使う!
しゃらくっ
ズオラ!!
ズオラ!!
ズオラ!!

もう一度同じ名で呼んでみろ
次は貴様を叩き斬るぞ
朽葉!!
ハッ
もう援護はいいぞ!
沙門様…
とりあえずだが妖にやられてた人達は祓ってきた
これで死ぬことぁないだろう
おい
——ん?
鵺はどうした
あ
そういえば…

ちっ
きりがないっ
どれだけいるんだ
己が牙爪を使えばもっと戦いやすかろうに
我らが生まれ持つ何よりの武器何故使わぬ
犬神よ
なるほど
主が欲しがるはずだ
犬神とは実に珍しい

ぐぬう
っ!!
嘆くは分が悪い
樹妖は元々獣妖よりも霊格が高い本来攻撃性のない妖だが…
一度牙を持つとこうも手強いとはな
ちぃ…紅ちゃんがいりゃなぁぁ
やっぱり俺ぁこういう直接的なのは苦手だわ
ドヨヨン
掴!!
バカッ
何している!!
戻れっ
ずるるる

悲しい
死にたくない
悲しい
失くしたくない
難しいことはわからない
考えたこともなかったから
でも仕方ない
じゃないか
これだけは
わかるんだから
！
俺だって
一人になるのは嫌なんだ
――っ
おい今様！
ちょっと待…

見つけた
見つけたぞ
ああ主殿…!!
やっとこの手に…!!
オオォオオ
もういいだろっ
それで帰ってくれっ!!
ふざけるな!!!
主殿の仇討つまで
退くわけには
いかんわ!!

第二十二夜 たまさか、わくばらに

第二十二夜
たまさか、わくばらに

癖みたいです。

あまつき④ 高山しのぶ

すぺしゃるさんきゅ。
カイナさん/にもさん
政乃さん/風さん/温様
ご住職/Nちゃん/Cさん
支援ありがとう 家族
毎度お世話になりまして 担当さん
応援感謝です 読者の皆様
感謝!!

うおぉぉ…
もうだめだ…
cさん〜私も
一緒に仮眠
一時か…

ガラッ

ん

あれ?仮眠は?

どういう経緯で
あなったのか
想像してるうち
に目が覚めた

うちの猫は、我が物顔で
私の布団と枕を使って寝ます。

にゃろろろ…

肩こり対策だったそうです。

See you next time!